

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医のカルテ



③



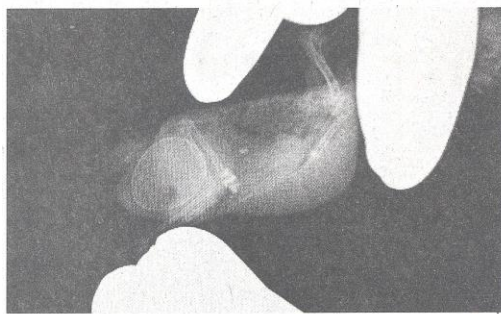
西岡動物病院長
(高岡市出来田)
西岡 満

鳥は空を飛ぶため体を軽くしなければなりません。メスは卵を早く作り、素早く産む機能があります。オスは飛ぶ際に邪魔にならないように、精巣は体内に存在し

ず。一般に、小鳥を新しく迎え入れるときは、ひなや若鳥で購入することが多いと思います。セキセイインコでは、生後10〜12カ月で産卵するのが普通ですが、これより早く産卵する鳥もいます。

鳥の繁殖期は「発情期」「抱卵期」「育雛期」「非発情期」に分けられます。メスの発情兆候は、交尾受容姿勢、巣作り・巣ごもり

小鳥の生殖系の病気



防衛行動、ふん便の大きさの変化、骨盤と腹部の変化などに現れます。オスの発情兆候は餌の吐き戻し、求愛行動、交尾行動などに見られます。

問題は、メスの異常発情による生殖疾患が非常に多く、特に慢性的に産卵する鳥は卵塞(卵づまり)、低カルシウム血症や持続発情による腹壁ヘルニア、卵管脱(卵管が排せつ口から脱出した状態)、肝臓疾患まで招きます。オスの場

メスの異常発情に注意

合、発情による精巣の発達は、腫瘍化を助長し、特にセキセイインコに多く見られます。発情に影響する要因をなくすには以下のような方法があります。

- ① 餌の量は日照時間が長いと発情するので日照時間を8時間以内にします。
- ② オスの同居を避けます。人慣れしている鳥は、頭や背中をなでる(こと)などを避けます。
- ③ 巣や巣材をケージ(かご)の中に設置しないようにします。部屋に出したときにはカーテン、洋服、引き出しなどの中に入り込まないようにします。床に新聞紙などの紙を敷かないことも必要です。
- ④ 餌の量を制限します。鳥は発情・産卵前にたくさん餌を食べ、体重が増えます。体重を増やさないように餌の量を計量してダイエットすることで発情を抑え、産卵をさせないようにします。
- ⑤ ホルモン調整のため、ホルモン剤を飲ませたり、注射をしたりするなどして発情を抑えます。

メスの繁殖関連疾患が病院に来院する鳥で、最も多く見られます。これを予防することで鳥の寿命を延ばすことができます。